

東京大学医学部附属病院 泌尿器科・男性科にて 入院中、末梢静脈カテーテル留置を受けた方 およびそのご家族の方へ

末梢静脈カテーテル留置にエコー技術を用いると、よりよいケアの提供（初回穿刺による留置の成功、合併症による想定外の抜去の低減）につながるということが報告されていますが、その技術の普及を促進する要因・阻害する要因はまだ明らかにされておられません。そのため、今回、末梢静脈カテーテル留置にエコー技術の促進要因・阻害要因を明らかにすることを目的に研究を行います。それと同時に、エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置の効果の検証を行う必要があります。末梢静脈カテーテルに関する情報を診療録（カルテ）より収集し分析を行います。

この研究の診療録調査の対象者に該当する可能性がある方で、
○診療情報等を研究目的に利用または提出されることを希望されない場合
○研究への協力を希望されない場合、あるいは協力を途中でおやめになりたい場合は 2023年4月（2023年4月以降にご入院された場合は、退院後1カ月以内）を目安に 末尾に記載の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題】

エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置技術導入に伴う阻害要因と促進要因の探索
（審査番号 2022304NI）

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。
研究機関 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
研究責任者 仲上豪二郎 教授
担当業務 研究計画立案・データ取得・データ解析

この研究に利用する情報は上記研究機関のみで利用されます。

【研究期間】

承認日～2026年03月31日

【診療録調査の対象となる方】

2022年7月1日～2024年3月までの間に泌尿器科・男性科病棟に入院し、末梢静脈カテーテル留置を用いて輸液療法を受けた方

【研究目的・意義】

看護ケアにエコー技術を導入すると、よりよいケアの提供につながる事が報告されており、当院でもその技術を導入し始めたところですが、その技術の普及を促進する要因・阻害する要因はまだ明らかにされておりません。それらが、明らかになることにより、エコーを用いた看護ケア技術の普及につながると考えられます。本研究では、看護ケアの一つ、末梢静脈カテーテル留置にエコー技術を用いる際の促進要因・阻害要因を明らかにするとともに、エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置の効果の検証を行う必要があり、末梢静脈カテーテルに関する情報を診療録より収集し分析を行います。

【診療録調査の方法】

これまでの診療で診療録に記録されている末梢静脈カテーテル留置に関する情報（カテーテルの種類、サイズ、留置部位、留置者、何回で留置が成功したか、抜去理由、留置期間、留置された患者の年齢、性別、BMI、投与された輸液製剤の情報、エコー使用の有無）を取得して行う研究です。特に研究対象者の皆さんに新たにご負担いただくことはありません。

なお、研究計画書や研究の方法に関する資料を入手・閲覧して、研究内容を詳しくお知りになりたい場合は、末尾の連絡先にお問い合わせください。他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲でご提供させていただきます。

【個人情報の保護】

この研究に関わって取得される情報等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

取得した情報は、解析する前に患者IDの個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにします。どなたのものか分からないように加工した上で、研究者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコン、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）の情報を使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の問い合わせ先に 2023年4月30日まで（2023年4月以降に入院した場合は、退院後1カ月以内を目安にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌等で公表します。

取得した情報は厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。保管期間終了後には、研究責任者が、電子媒体は適切な方法でデータを消去、紙媒体はシュレッダーに

かけることで廃棄します。

尚、提供いただいた情報の管理の責任者は下記の通りです。

情報の管理責任者

所属：東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻

老年看護学／創傷看護学分野

氏名：仲上豪二郎

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。なお、この研究に関する費用は、日本学術振興会 科学研究費助成事業（研究課題：繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装 研究代表者：阿部麻里）から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2023年3月

【連絡・お問合せ先】

研究責任者：仲上豪二郎

連絡担当者：阿部麻里

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻

老年看護学／創傷看護学分野

Tel: 03-5841-3424 (内線 23424)

e-mail: mari-a@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://www.rounenkango.m.u-tokyo.ac.jp/>